

多福寺

◎ Tafukuji Temple

入植した農家の人たちの菩提寺として元禄9年（1696）に建立されました。寺域周辺には雑木林が広がっています。



多福寺山門の十六羅漢
◎ Jurokurakan
at the main gate
of Tafukuji Temple



深鉢型土器

◎ Deep-pot earthenware

これは藤久保埜遺跡出土の縄文時代中期の土器で、食物の煮炊きや保存に使用されていました。



竹間沢里神楽

◎ Chikumazawa-Sato-Kagura

元締めを中心に数人から十数人で集団をつくり、祭りの季節になると招かれて各地の神社の祭りで神楽を奉納しました。竹間沢の前田家はそんな元締めのひとりで、その伝統は少なくとも百数十年をさかのぼることができます。（埼玉県有形民俗文化財。町指定無形民俗文化財）



県内最古級の石器

◎ One of the oldest stone tools
in Saitama Prefecture

藤久保東第二遺跡から出土しました。約3万年前のものと考えられ、県内最古であるばかりでなく、日本列島においても最古級の遺跡です。



竹間神社

◎ Chikuma-jinja shrine

竹間沢に古くからある神社です。4月26日に春祈禱、7月20・21日に近い土日に天王様、10月8・9日には秋の収穫に感謝するお日待ちが行われています。



旧島田家住宅

◎ Old Shimada Family's house

三富地区最古の古民家住宅です。寺子屋として経営されていたこともあり、三芳における近代教育発祥の地として意義深いところです。（三芳町有形文化財）



History

歴史を

ふるさとの「魅力」探訪



木ノ宮地藏堂奥の院地藏菩薩坐像

© Kinomiya-Jizo-do Okunoin Jizo-Bosatsu-zazo (Buddhist statue of a sitting children's guardian deity)
寛永19年(1642)の紀年銘があります。4月と8月の23・24日には地藏縁日が行われ、露店や参拝客でにぎわいます。(町指定有形文化財)

学び未来へつなぐ

時代を超えて、三芳町に受け継がれてきた文化財の数々。次代に守り継いでいきたい、郷土の財産です。

郷土の歴史に学ぶ

三 芳町に初めて人がやってきたのは、約3万年前だと考えられています。藤久保東遺跡や藤久保東第二遺跡から県内最古級の石器が発見されています。縄文時代には、竹間沢や藤久保に集落が営まれ、弥生時代には柳瀬川流域に大規模な集落が営まれていきましたが、わき水が豊富な竹間沢地域を除き、三芳町の大半は原野のままでした。江戸時代になって藤久保村、北永井村、上富村が開拓され、現在のまちの姿となりました。

Learning history leading to the future

It is said that people began to inhabit the area that became Miyoshi Town roughly 30,000 years ago. One of the oldest stone tools in Saitama Prefecture was discovered in remains in the town. During the Jomon Period (13000 BC to 300 BC), villages were formed in Chikumazawa and Fujikubo. In the Yayoi Period (300 BC to 300 AD), large-scale villages were formed in the Yanase-gawa river basin. During the Edo period (1603-1867), Fujikubo, Kitanagai and Kamitome were reclaimed to become the areas they are now.



新開遺跡出土のかめの一部 (福麻呂銘破片)

© Shards of an earthenware pot engraved with "Fukumaro," uncovered at the Shinkai remains

福麻呂という人物名がかめに刻まれています。新開遺跡では平安時代の須恵器を焼いた窯が発見されましたが、福麻呂とはどんな人物だったのでしょうか。

木ノ宮地藏堂

© Kinomiya-Jizo-do

創建は中世にさかのぼると考えられています。三富開発の拠点となった「地藏林」は、ここにあたります。現在の建物は農民の出資による安永6年(1777)の再建で、内部には107枚の天井画(再建時に作成)が描かれ、堂内には52枚の絵馬が奉納されています。(町指定有形文化財)

